

IB生3年間の流れ



IBディプロマプログラム (DP1) 時間割例 [文系]

SL、HLの組み合わせは、  
医学部医学科を含め  
主な学部に応じて選択が可能

IBディプロマプログラムでは、国際バカロレア機構の定めた授業を確実にこなすために、緻密にカリキュラムが組まれています。教室には、生徒の真剣と教師の真剣が共存する授業空間が広がっています。

※「English B」と「Maths」は英語による授業  
※日本の高校卒業と同等の資格も取得

	月	火	水	木	金
8:20~8:30	SHR				
1	LHR	Japanese	English B	English B	English B
2	History	Biology	History	Art	English B
3	English B	保健	Japanese	体育	Japanese
4	Biology	History	Japanese	Art	Biology
5	Maths	English B	Maths	Maths	体育
6	History	Maths	Art	TOK	Japanese
7	体育	Biology	TOK	History	History
8	Japanese	部活		TOK	Art

進路について

IB履修生が海外大学進学を視野に入れる場合は、選択肢が大きく広がります。IB教育は世界各国の大学で高く評価され、IBの成績結果を生かして出願できます。この入学審査方式の国には、イギリス、EU諸国、オーストラリア、シンガポール、アメリカ、カナダなどがあります。特にアメリカの大学の場合はIBスコアが入学後に単位として認定されることが多いです。海外の大学の場合は、IELTSの結果などで英語力を示す必要がありますが、日本語DPでのIBの最終スコアも英語などで履修した場合と同じ扱いとなります。国内の大学への出願は、総合型選抜のIB入試や推薦選抜などの方法で行います。国内の大学で多くのIB生がIBスコアを生かして受験している学校は、筑波大学、岡山大学、上智大学、早稲田大学、慶応義塾大学、国際基督教大学などです。

[IB入試で受験できる大学(一例)]

国公立大学	北海道大学、東北大学、国際教養大学、筑波大学、お茶の水女子大学、横浜市立大学、名古屋大学、大阪公立大学、岡山大学、広島大学 など
私立大学	青山学院大学、慶応義塾大学、国際基督教大学、上智大学、東京理科大学、同志社大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学 など
海外大学	King's College London, University of Edinburgh, University of Oxford, University of Cambridge, Stanford University, National University of Singapore など

STUDENT'S VOICE

DP2生 / 出身中学校: 京都市立凌風小中学校

IBディプロマプログラムの開始時は、未知の世界への不安が大きかったですが、先生たちのサポートを受けながら自身の成長を実感しています。コア科目と呼ばれるTOKやEE、CASの学びを通じて、それぞれの教科の学びを更に深めています。また、イギリスで大学プログラムに参加し議論したことは、私にとって貴重な経験となりました。IBDPで学ぶこの1年間で、私は時間管理能力や批判的思考力が向上し、計画的に物事を進める力が身についたほか、多忙な環境で忍耐力も大きく育まれたと感じています。また、授業での学びが日常生活に応用できるようになり、考える力が身についたとも感じています。まだまだこれからですが、IBDPを通じてもっと成長したいと考えています。

DP1生 / 出身中学校: ロンドン日本人学校

IBディプロマプログラムを選んだ理由は、探究的な学習をすることで学ぶ内容が深まるとともに、この学習方法が将来役立つと確信しているからです。今まで受けてきた授業と比べて、各個人に意見を求められる機会が多く、考えることが圧倒的に多いため、考える力を伸ばせることを実感しています。理数系の科目は不安ですが、授業はわかりやすいので、困難に直面したときは先生方と一緒にIBを学んでいる仲間の助けを得て、克服したいと考えています。教科では、特にEnglish BやIB理科の実験を通して学ぶことに興味があり、探究心を深めていきたいです。IBプログラムを通じて多くの知識を獲得し、身の周りの物事に疑問を持ち探求する力を身に付けていきたいと考えています。将来は目標としている進路を実現し、このIBプログラムでの学びを活かせる人になりたいです。

帝京ロンドン学園高等部

Teikyo School United Kingdom

Framework Road, Wexham, Buckinghamshire SL2 4QS U.K.  
TEL: +44(0)1753 663712 Email: teikyo.school@teikyofoundation.com

帝京大学本部国際化推進室 TEL: 03-3964-9044

学園ウェブサイト <https://teikyo-london-uk.teikyo.jp>



[帝京ロンドン学園 建学の精神]

常に努力を怠らず、豊かな人間性と人の痛みを分かち合う心情を涵養し、国際的視野に立つ知識を身につけた人間の育成をめざす。



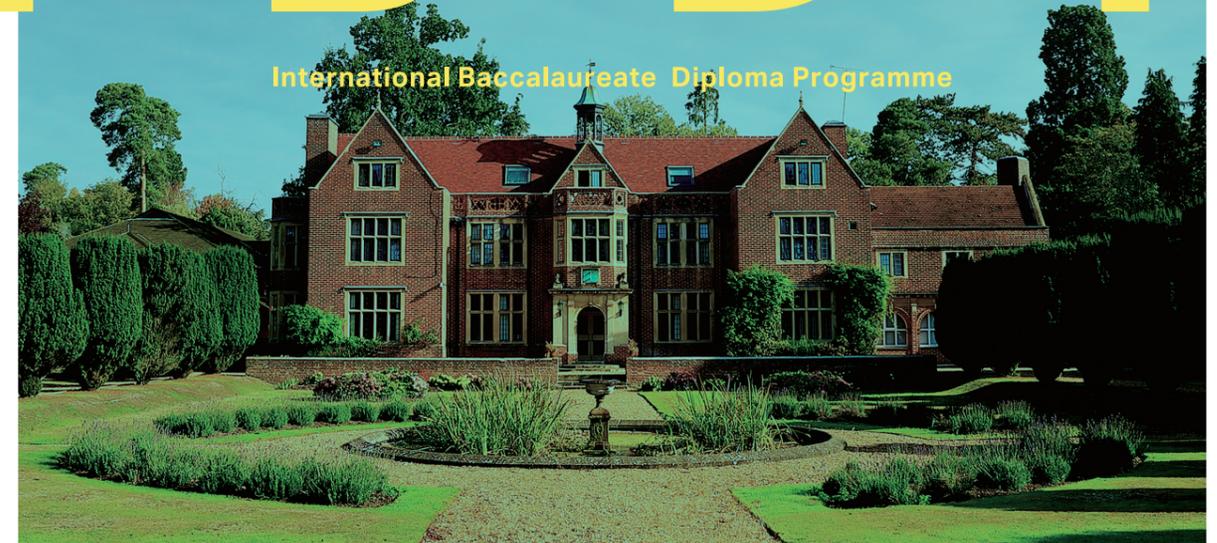
国際バカロレア資格で世界への切符を手に入れる



帝京ロンドン学園  
IBディプロマプログラム

IBDP

International Baccalaureate Diploma Programme



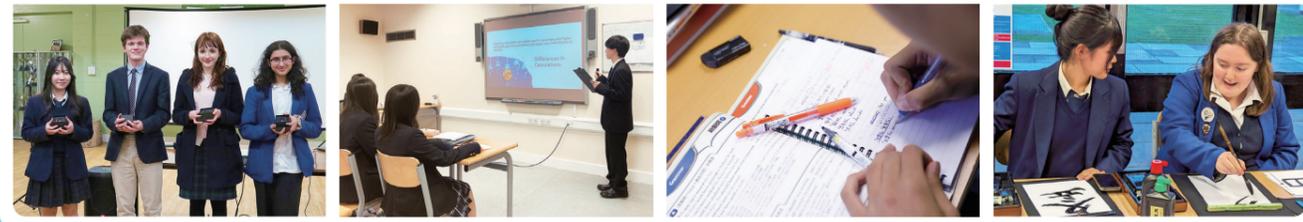
TEIKYO SCHOOL UNITED KINGDOM



2022年IB認定校

# 世界と未来を見据える国際的な視野を持つ人材を育成します。

国際バカロレア (IB: International Baccalaureate) は、国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的な世界共通の教育プログラムです。1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対応できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格 (国際バカロレア資格) を与え、大学進学へのルートを確認することを目的として設置されました。世界162か国、5800校以上が実施しており、本学園は2022年12月に在外教育施設初のIBディプロマプログラムの認定を受けました。IBが提供するプログラムは、ローカルおよびグローバルな様々な課題や考え方を、持続的に探究する機会を生徒に提供し、国際的な視野を持った人間を育てます。



## THE IB MISSION

IBの使命

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

## IB LEARNER PROFILE

IBの学習者像

「IBの使命」を具体化したもので、IB認定校が価値を置く人間性を、10の人物像として表しています。IBの学習者像は、IBの理念の中心であり、すべての教科、コア科目の出発点です。生徒のみならず、学校コミュニティすべてのステークホルダー、すなわち教師・保護者も一人の学習者として位置づけられています。



## IB DIPLOMA PROGRAMME



IBには4つのプログラムがあり、本学園ではディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) を行います。所定のカリキュラムを2年間履修し、高校3年生の11月に最終試験を受験し所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格 (国際バカロレア資格) を取得できるプログラムです。DPのカリキュラムは、3つのコア科目と6つの教科グループで構成されています。本学園のIBDPは日本語DP (DLDP: デュアルランゲージディプロマプログラム) で、6科目中2科目 (外国語と数学) を英語で履修します。DPの公用語は英語、フランス語、スペイン語ですが、DLDPで取得した国際バカロレア資格は、従来の英語、フランス語、スペイン語での取得と同じ評価基準で評価されます。

### コア科目

#### 課題論文 (EE)

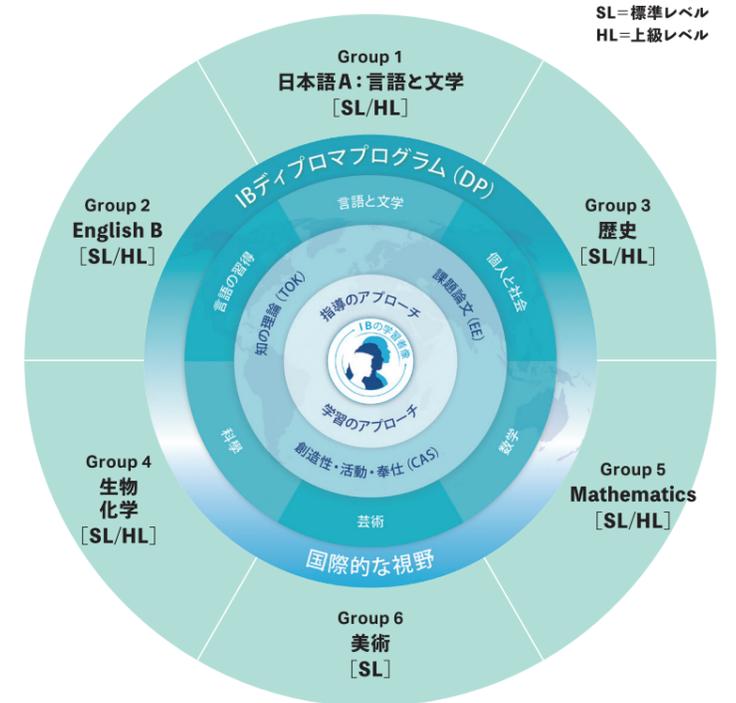
履修科目の中から1つの科目に関連した研究課題を決め、個人研究を行い4,000語 (日本語は8,000字) 以内で論文を作成する。

#### 創造性・活動・奉仕 (CAS)

生徒が主体的に、創造的な活動や身体的活動、そして社会奉仕に関わる活動などに取り組む。

#### 知の理論 (TOK)

国際バカロレア独自の科目であり、「知識とは何か」について深く探究する。知識を得るためのプロセスを多様な視点から考察し、比較検討をし、批判的思考力を養う。



## LEARNING HOW TO LEARN

—自立した学習者へ—

